

2019. 5. 11

畑 啓之

外国語表記に多くの誤り 「誤訳の案内板、訪日客が困惑」

昔々、もう30年も前だったか、どこの会社の広告だったかは忘れたが、一面広告にでかかど「Grobal」の文字を見たのには驚いた。その後も、街中を歩いていると、店の名前でもLとRの誤りなどが散見される。このような誤りは、英語表記であるのでその誤りが分かるのであるが、これが他の言語であると、誤りであるかどうかなどは知る由もない。

また、日本人の多くが着ている衣服に並んだアルファベット、それが何を意味しているのかを理解して着ている人は少ないのではないだろうか。とんでもない意味を含んでいる可能性もある。たとえば「恋人募集中」のような。外国人はおしゃれの一環でタツアを入れている人がいるが、それが日本語文字や文章の場合には「トンデモ」が多いようだ。ネットで検索すればその写真が多く出てくる。中には悲しいものや残念なものもある。

以上は、特に愛嬌あふれる実害のない外国語表記とすることであるが、登山道に誤表記があると、遭難の危険性が高まる。新聞記事にある「登山道に『帰りなさい』」位なら気分を害するくらいで実害はないのだが。

翻訳サイトでどのように変換されるかを試してみた。日本語→中国語→日本語の順である。日本語からスタートして中国語に翻訳され、その翻訳された中国語を日本語に翻訳しなおしたときに、元の日本語と同じ意味の日本語となっていれば一応は合格である。

まずは、「お帰り口」

Excite → 回来了口 → 帰りますか？口

Google → 回門 → バックドア

Weblio → 回来口 → 口へ帰ります

次いで、「想いとゴミは持ち帰ろう」

Excite → 感情和垃圾带回 → 感情はごみと持ち帰ります

Google → 讓我們带回感受和垃圾 → 感情やゴミを取り戻しましょう

Weblio → 把想法和垃圾带回去吧 → 考え方とゴミは連れ帰るでしょう

AIにバラ色の夢が託されている現代であるが、こと翻訳に至ってはまだまだであるようだ。人間が使う言語は、文法的にも多くの例外を含み、さらに多くのニュアンスを含む。同じ言葉であってもその話される状況により意味が変わってくることすらある。

# 誤訳の案内板 訪日客が困惑

訪日外国人向けの観光案内で誤訳が相次いで見つかっている。インターネットで利用できる無料の翻訳サービスや翻訳ソフトに頼るなど専門家のチェックを受けていないことが背景にある。意味が伝わらないだけでなく、不快な気持ちにさせてしまうこともある。観光立国を目指す日本にとってインターネットにもつながる恐れがある。

## 登山道に「帰りなさい」／退出口に「出て行け」

「登山道（あなろく）へ出て行け」。大阪市北区の梅田スカイビルに掲げられた案内板が1月下旬、中国の交遊サイト「SNS」で話題となった。案内板は、40階建てで屋上から大阪の市街一望できる人気スポット「空中庭園展望台」からの帰りの道に設置されていた。日本語の案内板は、お帰りの「SNS」では中国語を尊重して「帰りの？」など厳しきコメントが飛び交い、2月までに撤去した。

「お帰りの」の管理会社によると、案内板は通常は案内板内スタッフを配置できないエリアなどに臨時に設置した。通常は翻訳会社を通じて看板などを製作しているが、臨時用のためスタッフが翻訳ソフトを使って作成したのが誤訳の原因となった。

「退出」という漢字が使われていたため違和感はなく、まさかこんな意味になっていたとは……と悔やむ。

東京地下鉄（東京メトロ）でも駅で掲示していたポスターで誤訳が見つかった。

「走路分散注意力非常危険」。直訳すると「歩きながら注意力を分散させるのは危険だが、ポスターはスマートフォン（スマホ）を歩きながら操作する」とを注意する内容だった。中国語には肝心のスマホの操作が抜けていた。

新宿御苑（東京・新宿）の大学生、王敬文さん（20）は近く丸の内線の駅で見た誤訳について「中国語の表記があることに注意深く見ている。でも何を言っているのかわからない」と苦笑する。

大阪市高速電気軌道（大阪メトロ）も18年9月に自動翻訳ソフトを導入

## 翻訳ソフト任せ 確認怠り

入し、日本語の公式サイトを英語、中国語、韓国語、タイ語に翻訳して閲覧できるようにした。観光客などからの指摘を受け、現在はシールを貼って路線名の「誤訳」は「Sakai music line」と表記。天下茶屋駅が「WORLD TEAHOUSE」など誤訳を伝える。日本観光立国に「日本」のイメージがあるけれど、攻撃的なメッセージに感じる。首をかしげた。

観光立国に傷 看板などの翻訳を請け負っているアイコス（東京・千代田）の社長、石橋宏之さん（66）は「誤訳を見て北京在住の専門学生、江子愛さん（22）は立ち寄った大阪メトロを自ら目にしたという。現代中国語に詳しい大塚と中国語で書かれたメニューを自ら目にしたという。どんな理屈から人々のダブルチェックがなくなったという辻さし」

「どんな理屈から人々のダブルチェックがなくなったという辻さし」

案内板やホームページの誤訳例

日本語	誤訳
お帰りの	你退出 (あなたが出て行け)
思い出とゴミは持ち帰ろう	不把垃圾扔掉, 回去吧 (ゴミを捨てないなら、帰って行け)
微糖コーヒー	咖啡  적은 설탕 (コーヒー 少ない砂糖)
拵筋線	Sakai muscle line
天下茶屋	World Teahouse
3階目	eyes3
遺失物センター	Forgotten center
小人	dwarf (こびと)

(注)取材や観光庁の調査などを基に作成



「ゴミを捨てないなら、帰りなさい」という中国語が書かれていた看板はシールが貼られて修正されている（4月、東京都八王子市の高尾山）

観光庁は2〜3月に複数の主要駅やホームページを対象に、案内表示が外国人旅行者に分かりやすいかどうか調査した。その結果、全言語共通の誤訳パターンや意味の通らない表現が複数確認された。自動翻訳頼みの実態が浮き上がった。

「遺失物センター」を「Forgotten center」として

## 必要な情報不足も

（忘れられたセンター）、「小人」を「dwarf（こびと）」などが見つかるといふ。

主要駅から乗り換える80ルートでは、79ルートで案内板に英語が併記され、50ルートでは中国語の表記もあった。多言語表記は広がっているものの、乗車方法など必要な情報が不足しているケースもあり、同行は改善が必要としている。（加藤彰介、金子哲）